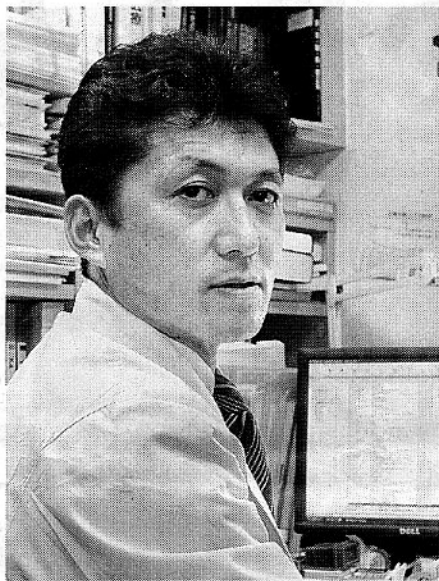


最前線

ひと

東京都渋谷区で、下肢静脈りゅうなどの「日帰り手術」を手掛ける北青山Dクリニック。この表看板と並び、無料の「オンライン相談」が話題を集めている。院長自ら1日数十件の相談メールに対応するが、主治医以外から意見を聞く「セカンドオピニオン」として活用する人も多いという。2000年の開業当初、認知度向上のためにホームページを作成。この際始めたのがオンライン相談だった。患者との意見交換になればと思っただけか、医師と患者の情報格差を解消したいとの思いも強かった。

北青山Dクリニック院長 阿保 義久氏(44)



医療

一般からの相談も 無料でメール対応

る治療と関係のない相談も多く、実は9割が一般からという。頭痛や腰痛などの対処法や、「胸の痛みがあるが、どうい病気が考えられるか」など内容も多岐にわたる。

中には末期がんなどの患者から「余命を宣告されたが、いま受けている治療の

「多くの人が健康に悩みを抱え、気軽に相談できる場所を求めている」と痛感している。相談を通じ、患者が「なぜ悩むのか」「どうしたいのか」ということもわかってきた。その経験を、診療に生かそうと努めている。

開業したのは「新しい医療を広めたい」との思いから。「米国では日帰り手術が当たり前。日本の方が医療技術が高いのに、なぜできないのか」との疑問が背中を押した。日帰り手術は主に下肢静脈りゅうや椎間板(ついかんばん)ヘルニアの手術が多く、それぞれ年間数百件をこなす。予防医療の充実も目指して、人間ドックなどにも取り組む。「一人一人に丁寧な検査を」との理想の実現を目指す上でも、オンライン相談は患者ニーズ把握のための有効な手段になっている。